

<「知るっば!久留米」 令和3年9月30日(木) 12:30~放送分>

久留米入城400年(後編) ~第5回~ 「これからの100年に向けて」

<ゲスト:久留米市文化財保護課 白木 守>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

今週も、『久留米入城400年』をテーマにお送りしていきます。ゲストはこの方です!

ゲスト:白木さん(以下「白木」)

久留米市文化財保護課の白木守です。よろしくお願いします。

坂本 2か月にわたってお送りしてきた『久留米入城400年』ですが、今回は最終回となりました。久留米入城400年の総括と同時に、『これからの100年に向けて』の取り組みなどをお伺いします。

白木 まず、入城400年の取り組みを振り返る前に、100年前に行われた「入城300年記念祭」についてご紹介したいと思います。

坂本 100年前、まだ私も白木さんも生まれていませんが、大正10年に入城300年記念祭が行われていたとは知りませんでした。

白木 ちょうど日本では、スペイン風邪の第3波が終息に向かっていた頃ですね。大正10(1921)年5月9日から11日までの3日間、久留米城内の篠山神社を主な会場として、久留米藩祖入城300年記念祭というのが行われました。かつて久留米藩領であった1市4郡、久留米市、三井郡、浮羽郡、八女郡、三潯郡で実行委員会を作ったの記念祭でした。

坂本 100年前はスペイン風邪の第3波、今はコロナ禍でなんかちょっと似ているような気もしますが、壮々なお祭りがあったということですね。しかも3日間に渡ったということですが、当時はどのようなことが行われたのでしょうか?

白木 大まかにいえば、記念式典に始まり、講演会や余興、演舞なんかもあったようですね。それから、甲冑(かっちゅう)を着て歩く大名行列の再現なども行われていたようです。江戸時代が終わって50年以上が経過していましたが、江戸時代生まれの方も多くいたわけですし、それもあって広域での催しにつながったんだろうと思います。

坂本 甲冑を着た行列、水の祭典でも武者行列はよく見かけますが、見応えがあったでしょうね。
今年の入城400年はどんな取り組みになりますか。

白木 まずは、一昨年から有馬記念館で「有馬入城前夜シリーズ」と題した企画展を行っています。
それが、入城400年に向けての取り組みのスタートですね。
また、昨年からはロゴマークやのぼり旗の作成、久留米焼きとり振興会による「殿さま串」の開発、
民間事業者にも記念商品の制作・販売などに協力いただき、機運醸成を図ってきました。

坂本 そして、いよいよ今年が400年。市民(みなさん)の入城400年の認知度はどうなんでしょうか？

白木 広報紙の「広報久留米」でもシリーズ化して特集を組んだり、
あるいは新聞や情報誌を含めたマスコミへの露出も増えてきています。
また、今年も企業さんからの協力のおかげで、
「入城400年」というキーワードだけは浸透しているのかなとは感じていますね。

坂本 はい、私が担当している広報紙「広報久留米」でもシリーズ化していますし、
今、新聞などでもよく登場していますよね。

白木 ですので、目にする機会は増えたんじゃないかなと思うんですよね。
一方で、入城400年をテーマにした出前講座で地域に行った際に参加者に聞いてみると、
入城400年という言葉は知っていても、その中身については知らない人も多いです。
また、同じ久留米市でも中心部と周辺部とでは、認知度に温度差があるようにも感じます。
かつての久留米藩領であった近隣自治体では、
まだまだ知名度が低いのが実情かなと感じています。

坂本 有馬記念館や六ツ門図書館なんかでも企画展があっただけで、
この半年だけを見ても、ずいぶん頻りにイベントなどを行っているように感じるんですけどね。

白木 イベント頼みになっている部分が多いのかもしれませんが、
これまで「知るっば久留米」を通して紹介してきたように、現在の久留米市街地の街並みの基礎は、
有馬の時代に造られたもので、私たちはその延長上で生活していることに間違いはない。
一方で、何にでも当てはまることですが、全ての面において光と影の部分があることも事実で、
良いことだけでなく、今後はそういった側面も伝えていく必要があると思っています。

坂本 これからは、イベントを行うにしても、また違った形での手法が必要になってくるのかなと思います。
今日で9月が終わりますが、10月からの取り組みで決まっていることがあれば教えてください。

白木 現在、開催中の企画展の関連イベントとして、「久留米城と城下町」をテーマにした講座や、
坂本繁二郎生家を会場にした体験イベントを考えています。

また、地域との協働による京隈かいわいめぐりやシンポジウムなんかも計画しています。

坂本 こうしたイベントの開催についても、コロナ禍ということで様々な対策もしておられますので、その状況次第かと思いますが、入城400年としての取り組みは今年度末まで続くわけですか？

白木 そうですね。厳密に言うと、年が明けると2022年になってしまいますが、今回の入城400年の目的としては、大名有馬家の入城400年を広く知ってもらおうと同時に、先人の思いを「これからの100年」に繋げていくための取り組みというのもテーマであるんです。その意味では、入城400年という言葉を知っていただいた点は、ある程度の目的を達したのかなとも思いますが、これで終わりではなく、次の100年に向けてのスタートでもあると位置づけています。

坂本 100年後の「入城500年」に向けてということですね。
当然、私たちはもういませんが、想いは次世代へ引き継いでいく必要がありますね。

白木 今ある久留米の町もそうですし、様々な文化や産業、農業、そして筑後川と共に歩んできた私たちの暮らしそのものを、どうやって次世代に伝えていくのか。
歴史をつなぐというのは、決して特殊なことではなく、時代の変化に対応しながら、残すべきもの、守るべきもの、伝えるべきものを確実にバトンタッチしていければと考えています。

坂本 非常に気の長い話ではありますが、有馬家が私たちの住む街の基礎を作ってくれたということで、これを心に刻んで、これからも我々はまちづくりに進んでいかなければならないと思います。
2カ月にわたり、面白いお話を本当にありがとうございました。

白木 ありがとうございました。